

平成28年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園運営費交付金に必要な経費			担当部局庁	社会・援護局障害保健福祉部		作成責任者			
事業開始年度	平成15年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	企画課施設管理室		池田 浩			
会計区分	一般会計									
根拠法令(具体的な条項も記載)	独立行政法人通則法第46条			関係する計画、通知等	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園第三期中期目標(H25.3.1) 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園第三期中期計画(H25.3.29)					
主要政策・施策	障害者施策			主要経費	社会保障					
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	重度の知的障害者に対する自立のための先導的かつ総合的な支援の提供、知的障害者の支援に関する調査及び研究等を行うことにより、知的障害者の福祉の向上を図ることを目的とする。									
事業概要(5行程度以内。別添可)	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の次の業務に必要な財源に充てるために運営に要する経費(人件費、一般管理費等)を交付している。 ①重度の知的障害者に対する自立のための先導的かつ総合的な支援を提供するための施設を設置し、運営。 ②知的障害者の自立と社会経済活動への参加を促進するための効果的な支援の方法に関する調査、研究及び情報の提供。 ③障害者支援施設において知的障害者の支援の業務に従事する者の養成及び研修。 ④知的障害者の支援に関し、障害者支援施設の求めに応じた援助及び助言。 ⑤附帯業務。									
実施方法	交付									
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求				
		当初予算	1,845	1,909	1,814	1,314	1,285			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計	1,845	1,909	1,814	1,314	1,285				
	執行額	1,845	1,909	1,814						
執行率(%)	100%	100%	100%							
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と25~27年度の達成状況・実績					
		国立のぞみの園では、自立支援のための取組として地域移行の推進を図り重度かつ高齢の知的障害者の自立に向けたモデル的支援の確立を事業の主な目的にしていることから、定量表示にすることが馴染まないため。			定性的な成果目標として、中期計画(平成25~29年度)において地域移行の取組等を行うことにより重度かつ高齢の知的障害者の自立に向けたモデル的な支援の確立に努めることとしている。達成状況としては、目標通り施設入所利用者の地域移行を進め、地域での自立した生活が可能となるような施設入所支援や日中活動支援を提供し、サービスモデルの構築に向けて取り組んでいる。					
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標年度	目標最終年度	
	施設入所利用者数の16%※について地域への移行を推進等していく。 ※対第2期中期目標終了時(平成25年3月31日)比)	入所利用者数の縮減割合	実績	%	5.5	11	15	-	-	
			目標値	%(▲)	-	-	-	-	16	
			達成度	%	34	69	94	-	-	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	重度の知的障害者に対する自立のための先導的かつ総合的な支援の提供(施設入所利用者数(各年度3月末時点))	活動実績	人	276	260	248	-			
		当初見込み	-	-	-	-	集計中			
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込			
	-	単位当たりコスト	-	-	-	-	-			
		計算式	-	-	-	-	-			
平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由						
	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園運営費交付金	1,314	1,285							
	計	1,314	1,285							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	Ⅷ 障害のある人も障害のない人も地域でともに生活し、活動する社会づくりを推進すること							
	施策	Ⅷ-1-1 障害者の地域における生活を支援するため、障害者の生活の場、働く場や地域における支援体制を整備すること							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 年度	目標年度 29 年度
		(第4期障害福祉計画による)福祉施設入所者の地域生活への移行者数	実績値	万人	-	-	-	-	-
		目標値	万人	-	3.7	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	障害福祉サービス事業所の側面も持つ(独)国立重度知的障害者総合施設のぞみの園(以下、国立のぞみの園)では中期目標及び中期計画に基づく取組の一つとして国立のぞみの園の入所利用者の地域移行を推進しており、これによって一障害福祉サービス事業所として当該施策・測定指標に資する関係となっている。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-
目標値		-	-	-	-	-	-	-	
達成度		%	-	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 年度	27年度	28年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	達成度	%	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									
事業所管部局による点検・改善									
国費投入の必要性	項目	評価			評価に関する説明				
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○			重度の知的障害者に対する自立のための先導的かつ総合的な支援の提供等を行い知的障害者の福祉の向上を図ることを目的としていることから、本事業のニーズは高い。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○			重度の知的障害者に対する自立のための先導的かつ総合的な支援の提供等を行い知的障害者の福祉の向上を図ることを目的としていることから、国が行う意義は大きい。				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○			重度の知的障害者に対する自立のための先導的かつ総合的な支援の提供等を行い知的障害者の福祉の向上を図ることを目的としていることから、障害者の地域における生活を支援する観点から優先度の高い事業となっている。				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-							
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無							
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無							
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-							
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-							
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○			支出については、人件費や物件費などの法人運営に必要な経費に限定している。				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-								
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○			中期目標及び中期計画に基づき、常勤職員数の縮減、給与水準の適正化、「調達等合理化計画」等に基づく合理化に取り組んでいる。					
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○			中期目標及び中期計画に基づき、縮減を行っている。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-							
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-							
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-							
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-							
	所管府省・部局名	事業番号	事業名						

点検・改善結果	点検結果	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園法第3条に基づき、重度の知的障害者に対する先導的かつ総合的な支援の提供等、適切な施設運営を行っており、事業の効率性についても、法人運営に必要な経費に限定して支出を行っている。また、地域移行者数の成果実績などの進捗状況を踏まえても、中期目標を達成する見込みが高い。			
	改善の方向性	毎年度行われる独法評価の結果を踏まえながら、第3期中期目標達成に向けて地域移行を進める等し入所者を縮減するとともに、支出については人件費や物件費などの法人運営に必要な経費に限定し適切かつ効率的な施設運営を引き続き行う。			
外部有識者の所見					
事業の内容とその実施による成果を、定量表示に馴染まないものであれば、定性評価可能とする説明を付するべきであり、当初からレビューシートへの記載を求める。当該事業については了承する。(増田正志)					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	引き続き、必要な予算額を確保し、適正な執行に努めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状通り	定性評価可能とする説明をレビューシートに記載した。 引き続き必要な予算額を確保し、適正な執行に努めてまいりたい。				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	519	平成23年度	472	平成24年度	416
平成25年度	774	平成26年度	772	平成27年度	787

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省
1,814百万円

【交付】

A (独)国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
1,814百万円

人件費
1,380百万円

物件費その他
434百万円

【事業概要】

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の業務に必要な財源に充てるために運営に要する経費(人件費、一般管理費等)を交付している。

なお、法人の運営は事業収入と運営費交付金を収入源として行われており、支出にあたっては事業収入分と運営費交付金を区分していないため、運営費交付金のみを切り出して支出額を算出することは不可能である。上記の金額は、参考までに、平成26年度の法人全体の支出額に対する人件費及び物件費その他の支出額の割合を平成27年度の運営費交付金に乗じて算出したものです。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

